平成 30 年度広域的人財育成事業　実績報告書

おきたま地域づくり
～人と地域をつなぐ事業～

事業概要

趣旨・目的	【趣　旨】 置賜地域においても、各自治体で課題となっている少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの衰退等の地域活力の低下を招く状態が続いている。 置賜地域が将来にわたり地域活力を持続・発展させていくためには、置賜地域にある地域資源を活用した地域全体の活性化に取り組むことが必要であり、地域住民一人ひとりの地域へのかかわりが地域活力の向上につながり地域全体に広がっていくことが何よりも大切になってくる。 そのため、第 5 次置賜広域行政事務組合ふるさと市町村圏計画（計画期間平成 25 年度～34 年度）に基づき、広域行政ならではの広域的な枠組みでの人財育成事業を計画期間内において長期的な視点で推進する。 【目　的】 本組合の人財育成事業を通じて、地域住民一人ひとりが地域づくり活動の場で活躍し地元地域へ還元することにより、地域課題の解決・地域のブランディング化・交流人口の拡大等につなげる。 また、地域づくり活動に関わることで地域に対する愛着と誇りを醸成し、自分たちが住む地域活力を持続・発展させるのは、自分たち次第だという意識を誘発することを目的とする。
概　　要	1　事業内容（継続的推進のための仕組み、事業内容を具体的に記載） 本組合の人財育成事業は、平成 28 年度を開始年度として平成 34 年度まで長期的な視線で実施することを予定しており、地域づくりに関わる人財に対する「きっかけづくり」と「精神的なサードプレイスとしての役割」を事業の骨子とする。（事業イメージは図 1 のとおり） 事業内容としては、参加した人への地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場としての役割が主となるため、講義や研修といった「OFF－JT」を中心に事業を進め、最終的には自ら意欲とやる気を持ち自己研鑽に努める「自己啓発」を促すことを目指した事業スキームを構築する。 ①講義で様々な成功事例や地域づくりに関する知識を学ぶ。

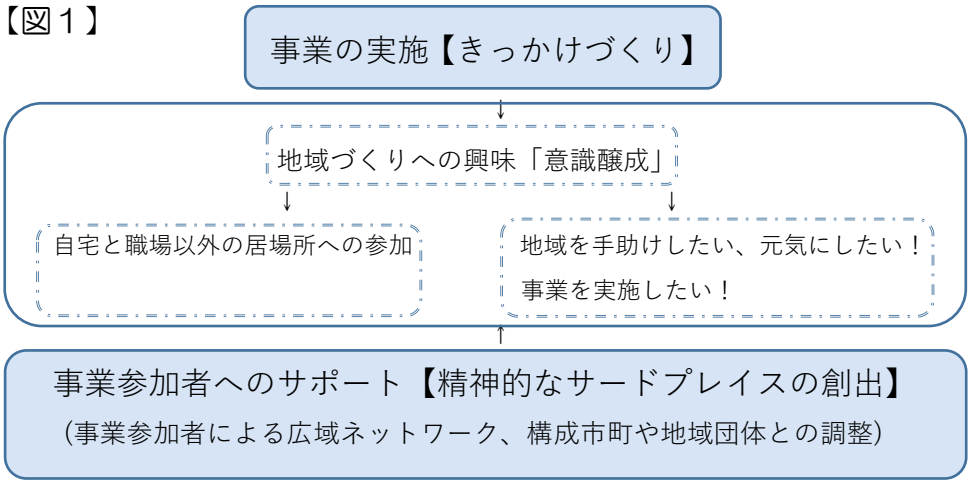
②地域づくりに関する様々な研修への参加（地域活性化センター主催の研修等）を通じて日本各地の地域や人財との相互交流により見識を深める。
③フィールドワークや演習を通じて実体験。
④振り返りにより事業に参加しての成果と今後の目標を確認。
⑤次年度以降の自発的な活動につなげていくもの。

2　事業後の展望

人財育成事業を継続することで、置賜地域内で地域づくりに関わる人々の「精神的なサードプレイス」としての役割を果たしていく。

また、参加者から事業実現のための相談や協力の要請があった際は、行政や地域づくり団体との橋渡しをすることで、事業展開の機会や活躍の場を創出していく。

【図１】



実施事業

項目	月日	内容
受講者説明会	5/17	第３期生へ事業内容を説明
講義Ⅰ	6/23～24	私たちはこの地域でどのように生きていきたいか
講義Ⅱ・公開講座	9/1～2	私の心のバリアを考える
芝の家等視察研修	11/9～10	芝の家、ご近所ラボ新橋、ご近所イノベータ養成講座の視察研修
講義Ⅲ	3/16～17	この地域に生き続けるために
地域活性化センター「土日集中セミナー」	7/28～29 10/6～7 11/24～25 10/27～28 12/15～16	地域と学校の支え合い 成長分野のインバウンド戦略 空き家・空き店舗の活用 地域の力を引き出す創発の場づくり やねだん東京塾
交流事業	6/23～25 11/23～24	置賜を訪ねる旅 24 時間トークカフェ置賜
受講者自主事業	7/10	フォーラム八百萬 テーマ「観光ニューウェーブ」

講師

坂倉　杏介 氏
[東京都市大学都市生活学部准教授、慶應義塾大学大学院政策、メディア研究科特任講師、三田の家ＬＬＰ代表など]
多様な主体の相互作用によってつながりと活動を創出する「コミュニティ・プラットフォーム」という視点から、コミュニティの形成過程やワークショップの体験デザインを実践的に研究。
地域コミュニティの拠点「芝の家」や大学地域連携の人材育成事業「ご近所イノベーション学校」の運営などを通じて港区のコミュニティ活性化事業を手がけるほか、地域づくりや企業におけるコミュニティ形成プロジェクトに多く携わる。

受講者[第３期]

合計 15 名（男性４名、女性 11 名）
米沢市（男性１名、女性４名）、長井市（男性２名、女性１名）、南陽市（女性１名）、高畠町（女性１名）、川西町（女性４名）、白鷹町（男性１名）

事業支援

団体名	所属・職名	氏　　名
（一財）地域活性化センター	人材育成プロデューサー	前　神　有　里
（一財）地域活性化センター	人材育成室副参事	須　藤　宇　道

事業内容

講座Ｉ「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか？」

項　目	内　容
参加者	第３期生 11 名
月　日	平成 30 年６月 24 日（日）
場　所	米沢市「スタジオ八百萬」
講　義	講師の坂倉先生から、「人と地域をつなぐ事業」のキーワードとなった「ゆるふわ」の話から講座が始まった。 「ゆる：開かれていて多様性があること。違いを超えてともにあること。」 「ふわ：まだ見えていない価値を模索すること。未来を志向すること。」

	→これまでの「地域おこし」の「型」に合わせるのではなく、一人一人が持ち味を発揮して生きること。自分たちの望む未来の暮らし方を実践し、そのために必要なまちをつくること。 講座は次の内容で進められた。 ①私を生かして、まちを活かす。 （新しい社会システムをみんなでつくりあう時代へ） ②仲間がいなければ、はじまらない。 （「つながり」と「対話」のうまれる場所とは？） ③「常識」を一歩超えていくには？ （想いをカタチにしていくための創造の技法） 講座の中で、高齢化が進行し、2035 年には、「1.2 人で 1 人の高齢者を支える。」ことを逆に考えれば、「大人 7 人で若い世代を育てられる社会」として捉えることもできるといった話や、「つながり」と「活動」がうまれる場所としての「サードプレイス」の話があった。 講話のあと、受講者同士がどんな人生を送ってきたのか、対話の中で掘り下げる「エナジーカーブ」のシェアを行うワークショップと、「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか？」をテーマにワークショップを実施し、対話により内容を共有した。

【講義Ⅰ「私たちはこの地域でどのように生きていきたいか？」の様子】

講義Ⅱ・公開講座「私の心のバリアを考える」

項　目	内　容
参加者	第３期生４名、第１期生１名、一般７名、坂倉研究室学生 25 名
月　日	平成 30 年９月１日（土）～２日（日）
場　所	南陽市「赤湯公民館（えくぼプラザ)」
講　義	講義Ⅱ・公開講座「私の心のバリアを考える」は、東京都市大学坂倉杏介研修室の夏合宿と合同事業という形で実施した。 「心のバリアフリー」を提唱する山形バリアフリー観光ツアーセンター代表理事加藤健一さんから、ご協力をいただき、「私の心のバリアを考える」をテーマに、加藤健一さんの講演、坂倉杏介先生の講話、人と地域をつなぐ事業受講者、地域住民の方々とともに「〈私の心のバリア〉を考える。」ワークショップを行った。 今回の公開講座は、ワークショップの内容やスケジュールもすべて、坂倉ゼミの学生が考え実施し、進行も学生が務めた。本組合の事務局から概要説明を行い、公開講座がスタートした。 はじめに、参加者の緊張をやわらげるため、アイスブレイクを行い、打ち解けたところで、公開講座が始められた。 公開講座は、加藤健一さんの講演から始まり、一般参加の方、坂倉ゼミの学生、人と地域をつなぐ事業の受講者全員で講演に聴き入っていた。 講演のあと、坂倉先生から、心のバリアを考えるワークショップの前に、心のバリアとは何かといった観点での講話があった。 「障害とは何でしょうか。健常とは何でしょうか。」、「どんな時に「心のバリア」が作動しますか。「あの人は違う」とか「どうせ私は」などと考えてしまうのはどんな時ですか。その時に、どんなことが心の中で起こっていますか。」について、ワークショップを行い、学生、人と地域をつなぐ事業の受講者、一般参加の方が、「心のバリア」に関する様々な意見を積極的に話し合っていた。 フィールドワークの報告は、ひとりの学生が代表して全体の感想について話をして、その後に学生の中で発表したい人がそれぞれ感じたことを発

	表した。インタビューに行く前と後で、「物理的なバリア」と「心理的なバリア」の考え方が大きく変わったという話があった。 　今回のフィールドワークでは、実際に車イスや高齢者疑似体験セットを使用したが、普段と違う体験をしたことが、とても良かったようであった。 　フィールドワークの報告を受けて、最後のワークショップとして、「誰もが暮らしやすいまちにするために、私たちができることは何か。」を、みんなで話しい、参加された方が分け隔てなく、発表していた。 　最後に、加藤健一さんと坂倉先生から講評があり、公開講座は終了した。 　交流事業である「24 時間トークカフェ置賜」につながる内容となった。

【講義Ⅱ・公開講座「私の心のバリアを考える」の様子】

芝の家等視察研修

項　目	内　容
参加者	第３期生 10 名
月　日	平成 30 年 11 月９日～10 日
場　所	(1) ご近所ラボ新橋[東京都港区新橋６丁目４－２] (2) 芝の家[東京都港区芝３－２６－８] (3) 喫茶ランドリー[東京都墨田区千歳２丁目６－９イマケンビル１Ｆ] (4) 慶應義塾大学東館６階[東京都港区三田２丁目１５－４５]

内　容	(1) ご近所ラボ新橋 　対応者：田渕瀬那 氏 　ご近所ラボ新橋は、港区が芝の家とあわせて運営する、「ご近所イノベーション活動」の実践を応援する実験室で、「地域と、誰かと、わたしのために、ここからはじまるご近所イノベーションをテーマに、身近なところから地域や社会をちょっと良くしていくという場となっている。 　運営体制は、港区と慶應義塾大学の協働事業となっており、事務局スタッフと曜日ごとに駐在する日替わりの「マスター」によって、日々の運営が行われている。当日は屋上菜園も見学することができた。 　その後、スタッフから説明と質疑応答が行われ、交流の場づくりについて、学ぶことができた。 (2) 芝の家視察研修 　対応者：坂倉杏介 氏、加藤亮子氏 　港区芝地区総合支所の進める「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点である芝の家を視察した。「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」は、子どもたちの成長を地域で見守り、井戸端会議では住民同士の親しい会話がある。そんな昭和３０年代にあったような「あたたかい人と人とのつながり」の創生をめざす事業である。「あたたかい人と人とのつながり」とは、子どもがのびのびと遊び、お年寄りが安心して暮らせるように、まちに住み働く人たちがお互いに支えあえる関係。 　事業の拠点である「芝の家」は、現代社会で見失いがちな、こうした暮らしのあたたかさを育んでいくため、子ども、大人、お年寄り、住民、在勤・在学者、だれでも自由に出入りでき、住民と共にまちを考え創ることのできる場を提供することを目的としている。慶應義塾大学との協働で行われ、大学と地域が連携しながら、運営を行っている。 　こういった話を聞きながら、受講者同士や芝の家に来ていた地元の方と交流し、地域をつなぐ場所を体験することができた。 (3) ワークショップ「私の心のバリアを考える」 　9 月に実施した公開講座の振り返りと、11 月に開催する「24 時間トークカフェ置賜」に向けて、受講者、24 時間トークカフェ置賜メンバー、坂倉研究室の学生と「私の心のバリアを考える」ワークショップを実施した。 (4) 喫茶ランドリー「建築と不動産のあいだ」 　対応者：高橋寿太郎 氏（創造系不動産代表取締役） 　　藤谷幹 氏（創造系不動産職員） 　東京都の森下駅と両国駅の間、墨田区千歳の住宅街にあった築 55 年の建物の１階、元は手袋の梱包作業場として使われていた空間をリノベーションして、オープンした喫茶ランドリーを訪問した。 　喫茶ランドリーは、コーヒーやお茶、軽食はもちろん、ランドリー（洗濯機）や大きめのテーブル、アイロンやミシン、お裁縫箱や編み物道具な

	どが用意されていて、リビングとして、読書室として、家事室として、工房として、そのときにしてみたいことのために、あるいは、何もしたくないということのために、気ままに利用できる空間となっている。 ３０分程度、「場」を体験し、その後に、同ビルの２階にある「創造系不動産」に伺い、「建築と不動産のあいだ」というテーマで代表取締役である高橋寿太郎氏の講話を実施した。 (5) シンポジウム「ご近所イノベーションの時代」 基調講演：「私たちは、東京ローカルで幸せを見つける」 指出一正 氏[ソトコト編集長] ファシリテーター：長津結一郎 氏[九州大学芸術工学研究院助教] ご近所イノベーションとは、地域にかかわる一人ひとりが「やりたいことをまちにつなげる」ことで実現する新しい地域づくりであり、「自分を生かして、まちを活かす。新しい地域づくりを、港区から。」をテーマに、「ご近所イノベーション学校」として、想いをまちにつなげるさまざまな講座の実施、ご近所イノベーション活動の情報支援、つながりと活動を生みだす場の運営や、学校という名の「新しいかたちの中間支援のプラットフォーム」づくりを通して、多くのご近所イノベーションが起こる地域を目指しおり、港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の連携により実施されている。 ご近所イノベーション学校では、自分の想いと持ち味を地域に活かし、人と人、組織と組織をつなげ、創造的な課題解決を実現する〈人財〉の育成を目的に、大学や地域の資源を活用した各種の講座を実施しており、今回は第６期の活動発表の見学と、基調講演を受講し、関係人口について学び、受講者も港区の参加者の方と意見交換を行うことができた。 (6) まとめ 人と地域をつなぐ事業の講師である坂倉杏介氏の港区での取り組みを受講者の方といっしょに体験することで、今までの講義内容を、より深く理解することができた。 基調講演で、指出一正氏（ソトコト編集長）から、置賜地域と港区芝地区で交流し、お互いの地域を学ぶ「24 時間トークカフェ置賜」も、「関係人口」をつくる取り組みであるとの発言があったことから、今後もこの交流を続けていきたい。

【芝の家等視察研修の様子】

講義Ⅲ「この地域で生き続けるために」

項　目	内　容
参加者	第３期生９名、第２期生２名、第１期生１名
月　日	平成 31 年 3 月 16 日（土）～17 日（日）
場　所	米沢市「スタジオ八百萬」
講　義	(1) 3 月 16 日「これまでを振り返り、これからを考える」 今年度の事業だけでなく、これまでの３年間について、振り返りを行った。これまでのやり方をそのまま続けた方がいいこと、変えた方がいいこと、新たに実施してみたいことを、対話を通じて共有することができた。 (2) 3 月 17 日「３つの well-being から考える」 チェックイン（自分の状態を参加者と共有）から講座が始まった。 はじめに、偏愛マップ（自分がとても好きなもの、こだわりのあるものを自分中心に書く）と、ペイン[苦痛]マップ（苦手なもの、嫌いなものなどを自分中心に書く）のワークショップを実施した。 マップを書いたあと、坂倉先生から、Well-being に関する講義があり、３つの「ウェルビーイング」として、自分にとっての Well-being を３つ書き出して、午前の部は終了した。 午後は、３期生が参加した「土日集中セミナー」と「芝の家視察研修」の感想を共有するところから始め、お互いの感想を話し合い、内容を共有した。次に、こんなことをしてみたい、こんな問題について考えてみたいというテーマを参加者から３つ提案してもらい、そのテーマについて対話を通じて意見を話し合った。それぞれのテーマを考える上で、well-being の軸を大切にして考えてみること、well-being につながるような発想をすることを考えながらやってみようと、講師から話があった。 ３つのテーマについて話し合い、最後にチェックアウトを行い、終わりの時の気持ちを共有し講座は終了した。

【講義Ⅲ「この地域で生き続けるために」の様子】

地域活性化センター「土日集中セミナー」受講

項　目	内　容
参加者	第１期生８名
月　日 内　容	受講者がセミナーを選択し受講した。 (1) 地域と学校の支え合い～地域とつくる『教育の仕組みづくり』～ ・日　程：平成 30 年 7 月 28 日（土）～29 日（日） ・場　所：地域活性化センター大会議室（東京都中央区日本橋 2 - 3 - 4） ・受講者：１名 (2) 今、取り組むべき成長分野のインバウンド戦略 ・日　程：平成 30 年 10 月 6 日（土）～７日（日） ・場　所：東京八重洲ホール３０１会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13） ・受講者：１名 (3) 地域の力を引き出す創発の場づくり ～ゆるやかなつながりを生む"余白"のデザイン～ ・日　程：平成 30 年 10 月 27 日（土）～28 日（日） ・場　所：W CAFE（東京都渋谷区神宮前 1-20-2 FOUND HARAJUKU 3 階） ・受講者：１名 (4) 空き家・空き店舗の活用から芽吹くコミュニティの未来 ～新しいエリアデザインのカタチ～ ・日　程：平成 30 年 11 月 24 日（土）～25 日（日） ・場　所：東京八重洲ホール３０１会議室（東京都中央区日本橋 3-4-13） ・受講者：５名 (5) やねだん東京塾～心を動かすリーダーシップの秘訣～ ・日　程：平成 30 年 12 月 15 日（土）～16 日（日） ・場　所：クロストランジット日本橋（東京都中央区日本橋室町 1-5-3） ・受講者：５名

【土日集中セミナーの様子】

受講者自主事業「フォーラム八百萬」

項　目	内　容
日　時	第３回テーマ「観光ニューウェーブ」：平成 30 年７月 10 日（火）
場　所	米沢市「スタジオ八百萬」
内　容	人と地域をつなぐ事業の第１期生が「人と人とのつながりは、人生を、社会を豊かにする。」という想いを持って新しい企画を考え実施した。 地域で「何か」に取り組んでいる「個人」、「企業」、「行政」の方に、共通のテーマでプレゼンしていただき交流する会として実施している。 第３回のテーマは「観光ニューウェーブ」として、置賜地域で多様な形の観光に携わる方にプレゼンしていただき、様々な交流を創りだすことができた。

【受講者自主事業「フォーラム八百萬」の様子】

交流事業「事前に置賜を訪ねる旅」

項　目	内　容
概　要	平成 30 年度の交流事業として、地域づくりの先端事例を地方に学び、美味しい食べ物とともに地域に暮らす人と人が出会うインターローカルな交流を行う「２４時間トークカフェ置賜」が、11 月に東京都港区芝地区で開催されるのに先立ち、24 時間トークカフェ置賜メンバーが置賜を事前に訪ねて、キーパーソンに出会う旅を交流事業として実施した。 コンセプトは「異なる土地に暮らす人との、細く長いゆるやかなつながりのきっかけづくり。ある価値観や体験を共有することを通じて、心の友のような存在となる人に出会えるような機会づくり。」として、24 時間トークカフェ置賜に向けて、置賜地域を体験していただいた。

参加者	講師１名、24 時間トークカフェ置賜メンバー11 名、坂倉ゼミ学生４名
日　時	平成 30 年６月 23 日（土）～25 日（月）
場　所	(1) 山形バリアフリー観光ツアーセンター、熊野大社、icho café、 シェルターホールなんよう［南陽市］ (2) おもちゃ屋 kimi、けん玉スパイク[長井市] (3) 置賜四季の暮らし舎[川西町] (4) ＮＰＯ法人Ｗｉｔｈ優、スタジオ八百萬、陽光庵[米沢市]
内　容	(1) ６月 23 日（土） ①熊野大社と icho café を見学した後、シェルターホールなんように移動し、事業の説明と「お互いが知り合う入り口の時間」として対話の時間を設けた。その中で大垣敬寛氏から icho café や、これまで取り組まれてきた南陽市の地域おこし事業について講話を実施した。 ②「NANYO BASE」に移動し、24 時間トークカフェ置賜のメインダイアログで講演していただく山形バリアフリー観光ツアーセンター代表理事の加藤健一氏から、「心のバリアフリー」をテーマに講演していただき、意見交換を行った。 (2) ６月 24 日（日） ２日目は、４班に分かれて、フィールドワークと 24 時間トークカフェ置賜メンバーと人と地域をつなぐ事業の受講者がお互いを知るためのストーリーテリングを実施した。 それぞれのフィールドワーク終了後に、ＮＰＯ法人Ｗｉｔｈ優代表の白石祥和氏から、学校に行けない・行かない事を選択した子ども達の修了支援などについて話を伺った。 ①南陽スカイパークでパラグライダーチャレンジ（南陽市） ②置賜四季の暮らし舎、大舟ワンダーランド体験（川西町） ③おもちゃ屋 kimi とけん玉スパイク（長井市） ④スタジオ八百萬と米沢まち歩き（米沢市） (3) ６月 25 日（月） 最終日は人と地域をつなぐ事業の受講者で「陽光庵」として、実家をまちに開く取り組みをされている小林みずほさんと、そのご家族から、お話を伺い、最後にスタジオ八百萬に集合して、24 時間トークカフェ置賜へ向けてのディスカッションを行った。

【事前に置賜を訪ねる旅の様子】

交流事業「24 時間トークカフェ置賜」

項　目	内　容
参加者	第１期生４名、第２期生４名
日　時	平成 30 年 11 月 23 日（金）から 24 日（土）
場　所	(1) ご近所ラボ新橋[東京都港区新橋６丁目４－２] (2) 芝の家[東京都港区芝３丁目２６－１０] (3) AT-Garage[港区新橋６－１８－３] (4) 芝３丁目場づくり研究所
内　容	(1) ウエルカムセッション　13:30-14:00　ご近所ラボ新橋４階 案内人：坂倉杏介氏 坂倉氏、24 時間トークカフェ置賜の事務局から、イベント全体のオリエンテーションがあった。 (2) オープニングセッション　14:00-15:00　ご近所ラボ新橋４階 「置賜を知る、その入り口の時間」話し手：加藤健一氏、本組合職員 本組合職員によるあいさつと、置賜地域の概要と人と地域をつなぐ事業の説明を行い、置賜から来た参加者の紹介を行った。 (3) コーヒーダイアログ　15:15-17:15　ご近所ラボ新橋４階 出張！スタジオ八百萬①「子どもの幸せ、大人の幸せ」 話し手：人と地域をつなぐ事業修了生２名　聞き手：加藤亮子氏 「スタジオ八百萬」の日々の風景の中で、子どもと大人それぞれが、その人らしく生きることを応援する活動について、芝の家の加藤亮子さんから、人と地域を事業修了生の２名に取り組みを聞く形で進められた。話を聞いたあとに、感じたことや思ったことを参加者同士で共有した。 (4) 芋煮トーク　18:00-20:30　ご近所ラボ新橋１階 「東京から置賜に嫁いだ私、そして自然の恵み」 話し手：人と地域をつなぐ事業修了生１名、聞き手：杉田浩二氏 置賜の美味しい野菜を使って参加者といっしょに、山形名物の芋煮を作り、後半は芋煮を食べながら、東京から置賜に嫁いだ人と地域をつなぐ事業修了生から、嫁いでびっくりしたこと、置賜の魅力、自然の恵みを活かした挑戦についての話を参加者のみなさんに聞いていただいた。 (5) 夜ふけトーク　21:00-22:30　AT-Garage 出張！スタジオ八百萬②「米沢のコミュニティプレイスは元八百屋さん」 話し手：人と地域をつなぐ事業修了生、聞き手：加藤亮子氏 スタジオ八百萬での取り組みを置賜の地酒を飲みながら、話を聞くという形で進められた。 (6) 寝袋トーク　00:00-03:00　芝３丁目場づくり研究所 「山形・南陽市と港区をつないで、まちの未来をみんなで考える」 ファシリテーター：大垣敬寛氏 南陽市の ichocafe と港区芝３丁目場づくり研究所を、大垣さんが取組む

「katarube」の仕組みを活用して、インターネットでつなぎ、個人商店とまちのこれからを考えるところから、人口減少やまちの未来について話をした。インターネットに接続して、見ている方も１５名から２０名程度いて、コメントとのやり取りなども活発に行われた。

(7) 朝のけん玉体操　07:30-08:30　芝の家

～ボードゲームのあるまち長井市から～

話し手：永野久美子氏、小西貴彦氏

競技用けん玉生産日本一の長井市のけん玉を使って朝の体操をした後、ボードゲームの聖地のひとつでもある長井市で見聞きしたことを永野氏、小西氏から話があった。

(8) おいしいからはじまる幸せ朝ごはん　08:30-09:30　芝の家

「朝市切符×置賜」

置賜地方のおいしいお米や野菜で、おにぎりとお味噌汁など、朝ごはんを参加者みんなで作っていただきます。港区芝地区に暮らすご家族、坂倉ゼミの学生、置賜からの参加者みんなで朝食を食べる時間は、とても心に残る時間になった。

(9) モーニングセッション　10:00-11:00　芝の家

「陽光庵プロジェクトのこと」

話し手：小林みずほ、聞き手：清家瑞穂

米沢市芳泉町で築 100 年の古民家に暮らす両親の家を地域にひらく活動、その試みについて話があった。

(10) メインダイアログ　13:00-15:00　ご近所ラボ新橋 4 階

「心のバリアフリー～空飛ぶ車椅子の当事者と仲間の話を聞く～」

話し手：加藤健一さん、東京都市大学都市生活学部坂倉研究室

大学生によるフィールドワーク報告を交えながら、自らの障害に向き合い全力で活動する加藤健一さんからバリアフリーの本質について話があり、実際に障害のある方も参加され、熱心に耳を傾け、積極的に参加されていた。また、置賜出身の方など、多様な方が参加されたダイアログとなった。

(11) クロージングトークセッション　15:15-16:00　ご近所ラボ新橋 4 階

「置賜との継続的なつながりにむけて～24 時間をふりかえりながら～」

話し手：坂倉杏介氏、加藤健一氏、本組合職員

24 時間を通して開催された 10 のプログラムを、写真と企画者や参加者のコメントとともに振り返った。坂倉先生や加藤健一さんとの出会いや、今回の 24 時間トークカフェ置賜のスタッフのみなさんとの出会いから、ほぼ 27 時間を振り返り、まだ明確な言葉になっていない港区芝地区と置賜地域のつながりが、これからどのようにつながりを続けていくのかを考えるという、とても楽しみなクロージングトークセッションになった。

	(12) まとめ ３月の講座に 24 時間トークカフェ置賜のスタッフの方に参加いただき、６月の事前に置賜を訪ねる旅を経て、開催された「24 時間トークカフェ置賜」は、スタッフ、坂倉ゼミの学生、参加者、人と地域の受講者、多くの方から支えられて、27 時間に渡るイベントとして無事に終了することができた。 港区芝地区と置賜地域の交流は始まったばかりだが、国が移住施策に代わって新たに示した「関係人口」を創出し続ける交流を今後も続けていきたい。

【24 時間トークカフェ置賜の様子】

受講者感想

【女性（米沢市）】

1年間ありがとうございました！

なかなか参加できず、昨日も参加できず、非常に残念でしたが、坂倉先生や置賜の皆さんと関わりながら、人と地域について考えるきっかけをいただけたこと、大変うれしく思いました。

やねだんでは、取り組みの素晴らしさに感銘は受けたものの、すぐに自分で実践するのは難しく、どうしたらいいかわからなくて、自身で悶絶したりしていましたが、事務局の方との対話の中で、まずは自分にできることやらないといけないことをしっかりしようと考えたり、芝の家では地域の人同士のゆるふわな繋がりを実感して、やっぱりこういう空間をつくりたいと考えたり、人と地域というか、自分と地域について考える機会をたくさんいただけました。

まだまだ全てを消化できているわけではなく、この1年間考えたことをこれからもゆるやかに考え行動していくと思いますが、悩んだら八百萬に遊びに行きたいと思います。

ちょっと遠くて、なかなか集まりに参加できていませんが、また皆さんとお話するのを楽しみにしております♪どうぞ引き続きよろしくお願いいたします！貴重な機会をいただきまして、本当にありがとうございました！

【女性（米沢市）】

参加した感想としては、well-being の要素を書き出したことがとても印象的でした。自分の人生に大切なもの、”いい感じの人生”に欠かせないものってなんだろうと考えるきっかけになって良かったです♪そして、その要素があるものだけを自分の周りに置こう…と思いました。もしかしたら、月日とともに要素は変わるかもしれないけど、定期的にこういう本質的な話ができる場があるのは本当に有り難くて、また引き続き、来期以降も楽しみにしています！

エリア八百萬の展開、なんか携わりたいなぁ。

とりあえずは1年間、貴重な機会をありがとうございました！子どもが産まれたらまたご報告します。

【女性（米沢市）】

来年度も米沢勤務が決まりましたので、来年度もどうぞよろしくお願いします。

今年度1年で目に見える結果は出ませんでしたが、何かが変わる予感がします。

周りは変わらなくても、自分の思考を変えられると世界は変わって見える気がします。

坂倉先生の講座は心に響くものでした。また受講したいです！！

山田美紀子さんのやりたいことを斎藤幸恵さんの手も借りて、私も何かお手伝いしたいと考えてます。

来年度は、少しだけ目に見える形で残せるようにしてみたいと思います。

これからもどうぞよろしくお願いします。

【男性（米沢市）】

地域の１人として、今後生活していく上での「気づき」や「ヒント」つかむことができるのではないかと思い、この事業に参加しました。

講義やセミナーを通して、自分の考えを述べたり、みなさんの意見や考えを聞けたりしたことは大変有意義でした。具体的な答えはまだ出ておりませんが、それでもその第一歩を踏み出せた、考えが整理された気がします。

3 月で１度区切りとなりますが、また何らかの形でみなさんと関わっていきたいと思いました。１年間ありがとうございました！

【男性（長井市）】

土日含めて、あまり参加できずにすいません！同期の方ともなかなか話す時間なくて残念でした。今後も時間あるときは参加したいと思います。

【男性（長井市）】

１年間ありがとうございました。大人になってからはなかなか年代や職業の違う人と接する機会がない中、いろんな人と関われた事が新鮮でした。また、置賜のマンパワーを感じられた１年でもありました。これから私自身も何か形にしつつ、行動したいと思います。

【女性（南陽市）】

新たな出会いや、そこからの刺激、とても良い時間でした。

もう少し密に、ゆっくりと皆さんと話を出来る時間があればよかったなぁと思いつつ…ここからがまたスタートと思い、来期以降も機会があれば参加してまたお会い出来ればと思います。ありがとうございました。

【女性（川西町）】

今回の機会を頂き自分だけでは思いつかない事を沢山知る事が出来ました。

なかなか時間が取れずに参加出来ない事が多かったのが残念です。

今後ともよろしくお願い致します。

【女性（川西町）】

ほんの数回しか参加できませんでしたが、とても学びの多い１年間でした！

たくさんの人と話すことで、自分が気付かなかった自分にも出会えた気がします。

また機会があればよろしくお願い致します。

【女性（川西町）】

今回参加して学んだことを自分の住んでいる地域や現在の活動に置き換えてより考えるきっかけとなりました。

坂倉先生、山田さんとは東京での土日集中セミナーでも大変お世話になりました。多様な考えを受け入れてくれるゆるふわな環境づくりを自分の活動（パソコンサロン等）に繋げていきたいです。

協力隊の時よりも都合がつけられなくなり参加出来ず、申し訳なかったのですが来期もまた機会があれば参加したいなと思います。ありがとうございました！

【白鷹町（男性)】
とても充実した研修と交流に満足しています、1年間ありがとうございました。 皆さんのレポート拝見しながら、あらためて研修内容を思い出していました。 私の選択科目は教育関連。 子供を地域パワーで育てようと大人が頑張った！実は大人の交流を増やすための取り組みでだった！という事例にシビれました。 こういう賢さが欲しい…。 まだまだ、私たちの地域でも出来ることはありそうです。 これからもよろしくお願いします。

総　括

【坂倉 杏介　氏（講師）】

３期生のみなさんはこれで終わりではなく、来年４期生が入って来たら、弟や妹ができると思っていただき、それを楽しみにしてほしいと思います。

人と地域をつなぐ事業を長く実施するにつれて、人と地域をつなぐ事業で募集しているのは、私のことかもしれないと参加してくれる人が増えてくると思います。

受講されてから、すぐに活動が起こっても起こらなくてもよくて、今日のような話を暮らしている地域で安心して話せる人が家族以外に増えていくことは、みなさんの暮らしの well-being を変えていくと思います。

いろいろなことに取組みたいという人には実際に取組んでもらい、そうでなくてもそういった人を応援できるという関係性もとても大事だと思います。

受講生の方と講座の時間以外にも仲良くしたいと思いますし、来年度、新しい４期生に会えるのも楽しみにしています。

【前神有里　氏（事業支援）】

これまで、自分にとっての well-being はちゃんと考えたことなかったので、自分を見つめ直すいい機会になりました。

人と地域をつなぐ事業は、みなさんと一緒に過ごしながら、自分を見つめなおす機会になっています。

みんなとフラットに話ができる場所で、いまやっていることを違う角度で見ることができて、幸せな気持ちになって帰ることができます。

おわりに

本組合では、平成 28 年度からふるさと市町村圏計画の広域活動計画に基づき、広域的人材の育成活用事業として、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」を与える場として、「おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～」を実施しています。

坂倉杏介氏の講義、受講者同士のつながり、芝の家等を視察した際の港区の方との交流などを実施することで、地域づくりに対する「気づき」や「きっかけ」だけでなく、受講者の自発的な取組みに繋がったことは大きな成果となりました。

３年目となった今年度は昨年に引き続き、坂倉杏介研究室の夏合宿と合同で公開講座を実施し、新たな取り組みとして、ご近所イノベーション学校の修了生が事務局として実施する「24 時間トークカフェ置賜」を交流事業として実施することができました。

これからも平成 34 年度まで、引き続き事業を実施するなかで、「気づき」や「きっかけ」を与える場であるとともに、受講者と共に、試行錯誤しながら置賜地域で活き活きと暮らしていくための方法を考えていく事業としていきながら、港区芝地区に暮らす方との関係人口を創り出す事業としても進めていきたいと考えております。

最後に、受講していただいたみなさま、講師の坂倉杏介氏、事業の支援をいただいた（一財）地域活性化センターのみなさま、坂倉杏介研究室の学生のみなさま、人と地域をつなぐ事業に関わっていただいたみなさまに、深く感謝申し上げ、報告書の結びとします。